

2016年3月4日

報道各位

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト
特定非営利活動法人ザ・ピープル
いわきおてんとSUN企業組合
特定非営利法人広野わいわいプロジェクト

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト 震災から5年メモリアル販売会のご案内

東日本大震災から5年という節目の時が近づいております。

私共が進める「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」では、これまで福島県いわき市、双葉郡広野町で震災後の農業の再生を目指して、耕作放棄地でのコットン栽培並びにその収穫した綿の商品化に取り組んで参りました。そして、このプロジェクトには、首都圏をはじめ全国各地から15,000人を超える方々に現地まで足を運んで頂き、お力添え頂いて参りました。心より御礼申し上げます。

これまで頂いたご支援の成果を形にしてご報告すべく、震災から5年の節目である2016年3月11日より、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」として新たな商品ラインナップを揃えてご披露させて頂く「震災から5年メモリアル販売会」を開催することとなりました。ぜひ、御社を通して広くお知らせいただければ幸甚です。

なお、今回販売する新商品は、復興庁の平成27年度「新しい東北」先導モデル事業に採択された「双葉八町村に春を呼ぶ！広野わいわいプロジェクト」の一環で開発したものです。

震災から5年メモリアル販売会 概要

- 開催場所： さとゆめ LAB SHOP
(東京都千代田区平河町 2-16-15 北野アームス 1階)
※東京メトロ「永田町」駅4番出口徒歩30秒
- 開催期間： 2016年3月11日(金)～3月31日(木)
- 営業日： 月曜日～金曜日(土日は閉店)
- 営業時間： 11:00～18:30(14:00～15:00一時閉店)
- 販売商品： ○オーガニックコットンペイブ
(5年メモリアルバージョン)
○オーガニックコットン手紡ぎセット(新商品)
○ふくしまオリーブキャンドル(新商品)
○オーガニックコットンTシャツ
(5年メモリアルバージョン)



さとゆめ LAB SHOP 外観

特定非営利活動法人ザ・ピープル 担当：代表 吉田 恵美子

〒971-8101 福島県いわき市小名浜蛭川南5-6

Mail. the-people@email.plala.or.jp

Tel. 090-2881-3107 (吉田)

【参考1】

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト 「震災から5年メモリアル販売会」 販売商品について

○オーガニックコットンベイク

福島県いわき市や広野町で栽培するオーガニックコットンの綿（わた）と種でつくった人形です。双葉郡から避難されているお母さんや障害のある方々の手仕事でつくられています。

これまでに2万個が販売され、福島の農業再生のシンボルのひとつとして、親しまれています。

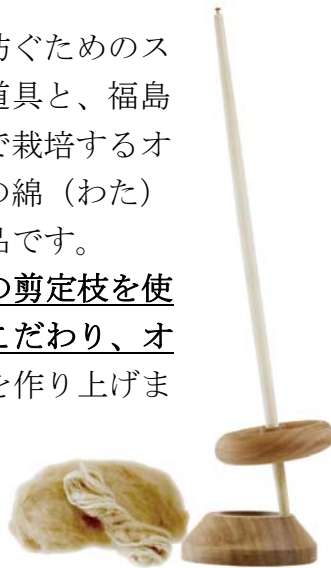
この度5年メモリアルとして、新たなパッケージを用意しました。



○オーガニックコットン手紡ぎセット

綿（わた）から糸を紡ぐためのスピンドルと呼ばれる道具と、福島県いわき市や広野町で栽培するオーガニックコットンの綿（わた）がセットになった商品です。

福島県内のオリーブの剪定枝を使うなど、素材や形にこだわり、オリジナルのデザインを作り上げました。



○ふくしまオリーブキャンドル

福島県広野町の新たな産業抄出の一環として栽培されているオリーブの葉の粉末を使ったキャンドルです。

オリーブの実を模しており、オリーブ栽培の支援を呼びかけるシンボルとしていきたいと考えています。



○オーガニックコットンTシャツ

311の文字にいわき市や広野町で育つオーガニックコットンの写真を配したメモリアルTシャツです。震災を忘れないという気持ちと震災を契機として始まったプロジェクトをイメージしています。



【参考2】

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト 「震災から5年メモリアル販売会」 開催場所（さとゆめLAB SHOP）について

<概要>

店舗名： さとゆめ LAB SHOP (ラボショップ)
所在地： 東京都千代田区平河町 2-16-15 北野アームス 1階
営業日： 月曜日～金曜日（土日は閉店）
営業時間： 11:00～18:30（14:00～15:00 一時閉店）
アクセス： 東京メトロ「永田町」駅 4番出口徒歩 30秒
facebook <https://www.facebook.com/LabSatoyume>
問合せ先： 03-5275-5105（運営会社：株式会社さとゆめ）

<外観写真>



<周辺地図>



【参考3】

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト ～福島、いわきそして広野町の農業の復興・再生のために～

東日本大震災後、原発事故の影響で福島県の浜通り、いわき市や双葉郡広野町においては耕作放棄地の急激な拡大が引き起こされました。

本プロジェクトでは、地域の農業再生に向けた取り組みとして、食用ではなく塩害にも強い、繊維になる作物、コットン(綿花)を有機農法で栽培し、収穫されたコットンを製品化・販売する取り組みを2012年から行っています。これにより、地域に活気と仕事を生み出すことを目的とし、福島から新しい農業と繊維産業を創出したいとの考えの下、本プロジェクトは進められています。

この栽培には地元農家だけではなく、地域住民、原発事故の影響による避難者、地域外から訪れるボランティアなど多くの市民が関わり、農作業を共にすることで新たな交流を生み出している。

収穫されたコットンは、Tシャツやタオルといった繊維製品に加工されるほか、地元女性たちの手により「コットンベイブ」など私たちのメッセージを込めたものづくりを進める材料として活用されています。

<福島県いわき市について>

福島県いわき市は東北の東南端に位置し、その温暖な気候から「東北の湘南」と称され、広大な面積に山、海、川そして温泉など変化に富んだ自然に恵まれ、以前は移住して住みたい街として人気を得ていました。かつては、農林水産業に加え、常磐炭田の石炭産業を中心に、首都圏に向けたエネルギー基地として栄えた地域でした。常磐炭田閉山後も、大規模合併を期に工業化を進め、福島県浜通りの拠点として発展してきました。

東日本大震災は、この町の第一次産業やその関連産業、常磐湯本温泉などの観光業に大きな打撃を与えました。原発事故に伴う風評被害は容易に払拭できるものではなく、現在でも困難な課題を抱えた状態であることは否めません。また、原発避難者の長期受け入れなどに起因する震災直後とは違った課題も浮かび上がってきています。

しかし、こうした困難に向き合いながらも、いわき市は一步ずつ着実に復興への道のりを歩んでいます。

<福島県双葉郡広野町について>

双葉八町村の南端に位置する広野町では、冬でも雪の少ない温暖な気候であり、Jヴィレッジの開設後、小規模ながらも浜通り屈指の観光地として知名度を上げていました。キャッチフレーズは「東北に春を告げる町」。しかし、福島第一原発事故の影響で町全域が緊急時避難準備区域に指定され、全町民が町外に避難しました。緊急時避難準備区域は2011年9月30日に解除されていますが、町民の帰還は半数以下にとどまっています。